

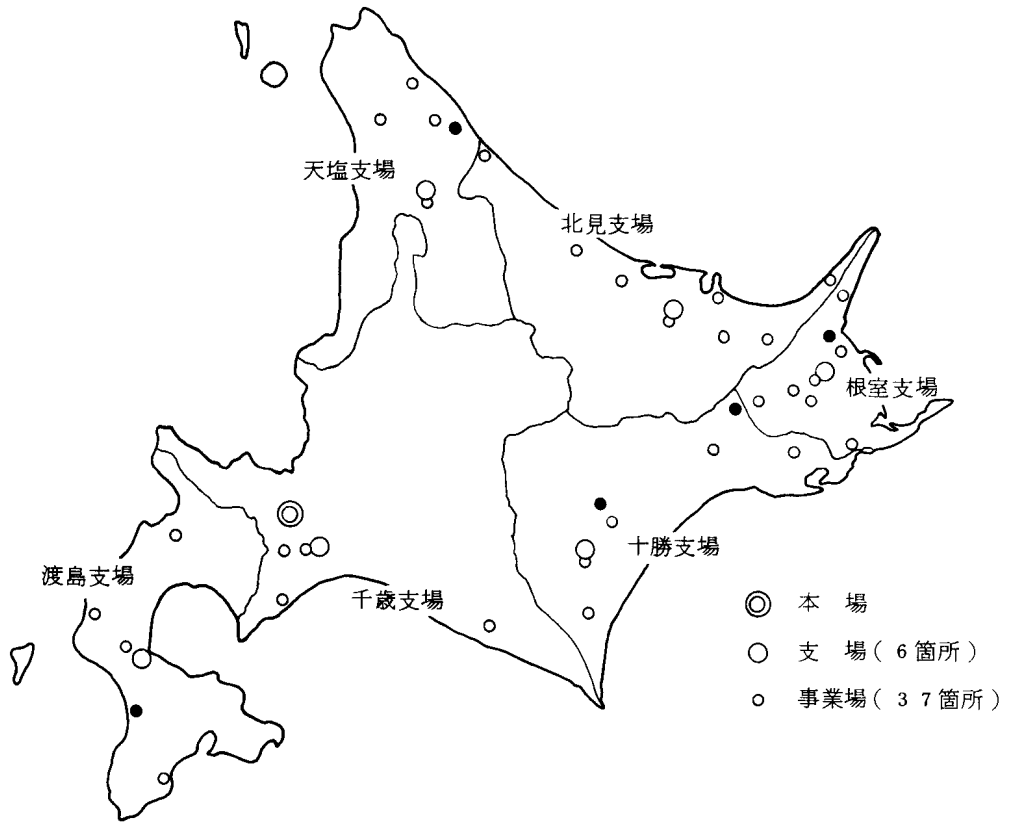
昭和 53 年度

事 業 成 績 書

水 産 庁

北海道さけ・ますふ化場





●昭和53年度施設整備箇所

北見支場管内

○北見 ○岩尾別 ○斜里 ○藻琴 ○網走 ○北見 ○湧別 ○渚滑 ○幌内

根室支場管内

○根室 ○羅臼 ○薫別 ○伊茶仁 ○中標津 ○根室 ○計根別 ○虹別 ○浜中

十勝支場管内

○十勝 ○チャンベツ ○釧路 ○鶴居 ○札内 ○幕別 ○十勝 ○大樹

天塩支場管内

○天塩 ○徳志別 ○歌登 ○頓別 ○中川 ○天塩

千歳支場管内

○千歳 ○千歳 ○静内 ○敷生 ○支笏湖

渡島支場管内

○渡島 ○尻別 ○利別 ○厚沢部 ○八雲 ○知内

昭和53年度施設整備内容

薰別事業場

昭和53年11月30日竣工 総工費29,050千円

取水施設4箇所それに伴う導水施設

釧路事業場

昭和53年12月8日竣工 総工費160,536千円

第1水源設備・ふ化室・養魚池

増設後の各収容能力

項目	ふ化室能力	養魚池能力	飼育池能力
旧施設	69,200	41,500	32,500
新施設	80,200	40,000	32,500

札内事業場

昭和54年1月31日竣工 総工費61,120千円

管理舎、発電機室、井戸2箇所、揚水設備

徳志別事業場（写真）

養魚池、養魚池上屋、飼育池、給排水設備、放流水路、排水路、取付道路、外燈設備

厚沢部事業場（写真）

ふ化室、養魚池、養魚池上屋、飼育池、集水井戸2箇所、揚水設備、発電機室、取付道路

刊 行 の こ と ば

本年は、さけ・ます資源増大計画の後期計画（昭和51～55年）第3年目に当る。

着実に実績をあげてきているさけは、本年北海道における来遊は13,147千尾となり、放流数も計画の100%をこえる成績となった。なお本州地域においても事業の拡充を行って回帰群を増やしているが、本年の北海道地域からの移殖卵は61,316千粒であり、この放流はわが国全体の資源の増大に貢献する筈である。

北洋での漁獲は、42,500トンと最低線に下ったとき、国内資源が急速な上昇を示していることはご同慶にたえない。

しかし、計画の達成は親魚確保のための漁業規制によってもたらされたものである。来遊量が大巾に増えていることからすれば、一定率の河川そ上は親魚数をも増やすことになる筈であるが、実際には、そこで漁業が行はれる限り、殆んどのさけは漁獲される。漁獲努力が大きいためで親魚を計画的に得るためには漁業規制が必至となる。

本年も前期規制を中心に大巾に網入れをおくらせ、更に終漁を早めた。また、道南地方では操業期間中に一定期間の操業中止も行った。結果として計画の達成となり、順調に資源増大への一段階がつけられることとなった。関係者の理解が深まり、規制が自主的に行われるようになったことは今後の事業の拡大に明るい見通しを与えている。

他面、ます類は著しく低い実績になった。からふとますでは、23,398千尾の放流で、計画対比では30%、この5年間の最低である。また、さくらますは、4,035千尾の放流で昭和41年以降最低の記録である。

これらは親魚数の不足が原因であることは当然だが、親魚が少いときは放流も少くなるという有り様から資源の維持増大は図られない。基本的な命題である漁業の在り方、遊漁、河川環境等の懸案に答がだされ、適切な増殖施策の組み立てとなるべきものである。これらの解明に時間がかかり、効果的な施策の展開にならないのは遺憾であるが、なお時間を要することではある。

解決をせまられている重要な問題として、今後も努力を続ける所存である。

昭和55年 2 月

北海道さけますふ化場

場長 西 野 一 彦

水産庁北海道さけ・ますふ化場事業成績書

目 次

本書の見方	1
§ 1. さけ・ます捕獲事業実施体制	3
§ 2. さけ・ますふ化放流実施体制	6
§ 3. さけ・ます増殖事業経費	12
§ 4. 北海道さけ・ますふ化場の現員	13
§ 5. 北洋さけ・ます漁業	14
§ 6. さけ・ます増殖事業成績総括	16
§ 7. さけ増殖事業	23
1 さけの沿岸来遊概況	23
2 沿岸漁業と再生産用親魚の確保	25
3 さけ種卵の移殖	46
4 さけふ化放流成績概要	54
§ 8. ます増殖事業	72
1 捕獲採卵概要	72
2 ます種卵の移殖	96
3 ますのふ化放流成績概要	98
§ 9. ひめます増殖事業	114
§ 10. 新しい魚種の増殖	116
§ 11. さけ・ます親魚蓄養成績	117
§ 12. べにざけ生産事業	142
§ 13. さくらます資源拡大再生産事業	144
§ 14. 稚魚飼育事業	147
§ 15. 降河稚魚保護事業	164
§ 16. さけ・ます稚魚輸送放流事業	165
§ 17. 河口通過稚魚観測事業	180
§ 18. 調査研究結果	181
資料の刊行	213

本書の見方

1. さけ・ます増殖事業の実施体制と経過概要

北海道におけるさけ・ます増殖事業は、明治21年、現在の千歳支場の地に北海道庁所管の中央ふ化場の創設をもって始まり、その後、道内各地に民間（漁業組合）経営の人工ふ化場が設立され、一時、水産試験場の所属となったが、昭和9年にはふ化場を道営に移管した。

昭和27年、農林省所管水産庁北海道さけ・ますふ化場が設立されて、さけ・ますの人工ふ化放流を行なうこととなったが、このうち親魚の捕獲事業は北海道立水産ふ化場に委託した。しかし、昭和41年以降は道立水産ふ化場に代って、北海道さけ・ます増殖事業協会に委託している。

また、昭和46年度以降は長期増大計画に伴い、道営・民営のふ化場が順次建設され、国営事業の補完と協力という形で運営されている。

2. 主要魚種

創設当時から人工ふ化放流事業を実施している魚種はさけ、さくらます、からふとます及びひめますである。このほかに、昭和42年度からべにざけ生産事業を実施している。

3. 計画年度と成績

単年度計画は、国の会計年度区分（4月～翌年3月）によって計画を立てるが、この成績書は親魚の捕獲、採卵、卵管理、稚魚飼育、放流、降海稚魚の保護までの一環した成績を取まとめているので、翌会計年度の4～7月頃までの成績を扱っている。

4. 主な用語の意味

〔沿岸来遊量〕 さけ・ます漁業は、再生産のための河川内親魚の捕獲（特別採捕）を除いて、遠洋、近海、沿岸の3つに大別出来る。このうち、沿岸漁獲量と河川内捕獲数を合せて沿岸来遊量としている。

〔年級群〕 さけ・ますの産卵のための回帰は主に2～5年にわたっている。これらは産卵年から起算しての回帰年数であり（発生年ではない）、或年の2年魚、翌年の3年魚、翌々年の4年魚さらにその翌年の5年魚は同一年級群である。

〔河川そ上率〕 河川そ上数（捕獲数）÷沿岸来遊量で表わしている。

〔移殖と移籍卵〕 採卵された河川以外に種卵を移すことを移殖という。

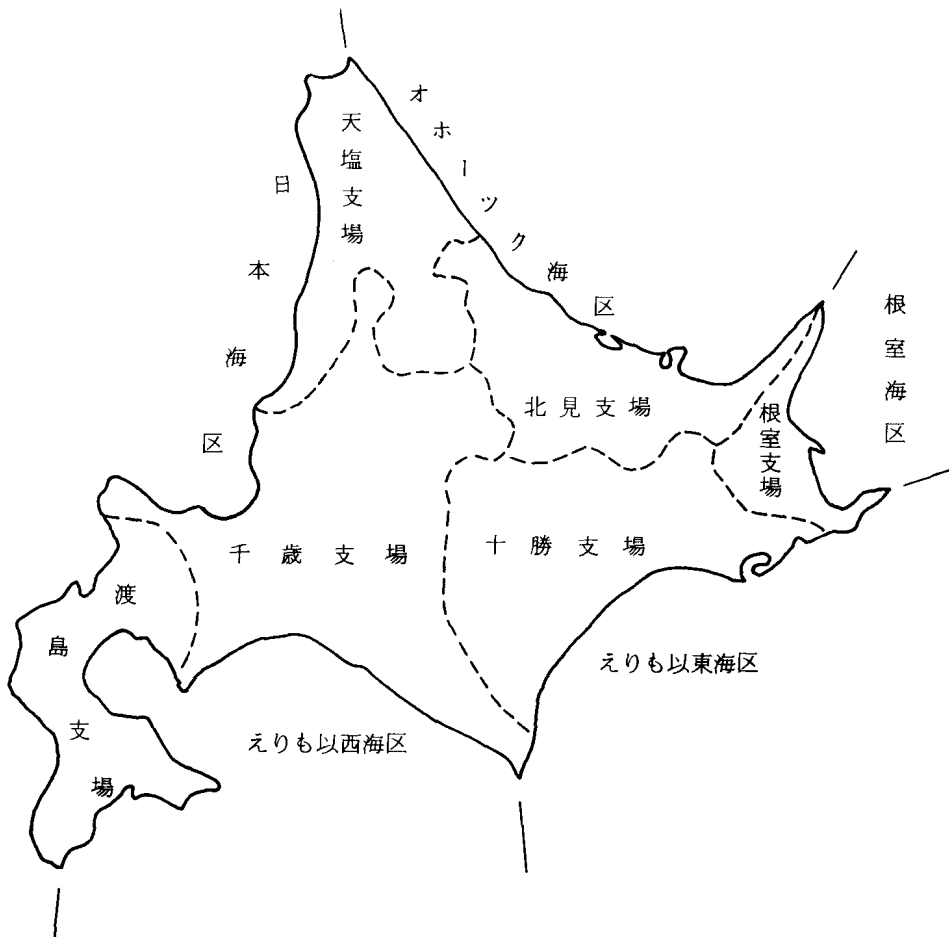
また、移殖する種卵を移殖卵というが、発眼卵で移殖する場合、移殖前に除去した死卵を、移殖卵の履歴として加え、卵の成績を表示したため、これを移籍卵とした。

5. 海区別と支場の担当区域

全道海域を5海区に分け、その境界はそれぞれ、知床岬、宗谷岬、白神岬、納沙布岬、襟裳岬で区分している。

支場の担当区域は、下記区分の海面に流入する河川を包含する流域としている。

- 北見支場 宗谷・網走支庁界 ～ 知床岬
- 根室支場 知床岬 ～ 根室・釧路支庁界
- 十勝支場 根室・釧路支庁界 ～ 十勝・日高支庁界
- 天塩支場 宗谷・網走支庁界 ～ 雄冬岬
- 千歳支場 雄冬岬 ～ 神威岬、および十勝・日高支庁界 ～ 地球岬
- 渡島支場 地球岬 ～ 神威岬



§ 1 さけ・ます捕獲事業実施体制

昭和53年度のさけ・ます捕獲採卵事業は道内139河川、143捕獲場(さけ56個所、さけ+ます75個所、ます11個所、ひめます1個所)で実施した。

このうち国が直接実施した捕獲場は2個所(遊楽部、支笏湖)、民間団体に委託して実施した捕獲場は141個所である。

この詳細については第1表のとおりで、支場別に整理したものが第2表である。

(表中の記号は下記のとおり)

さけの欄 …… ○さけ、◎さけ・べにさけ、●さけ・ぎんざけ

ますの欄 …… ○さくらます、○からふとます、◎さくらます・からふとます、⊕ひめます

第1表 昭和53年度さけ・ます捕獲採卵事業実施体制

海 区	水 系	捕 獲 所 属	実施区分				海 区	水 系	捕 獲 所 属	実施区分						
			さけ		ます					さけ		ます				
			国	民	国	民				国	民	国	民			
オ ホ ー ツ ク 海 区	ルシヤ	ルシヤ	岩尾別		○		◎	オ ホ ー ツ ク 海 区	北見幌別	北見幌別	歌登		○		◎	
	ボンベツ	ボンベツ	"			○			頓別	頓別	頓別		○		○	
	岩尾別	岩尾別	"		○		◎		猿払	猿払	"		○		◎	
	遠音別	遠音別	"		○		◎		鬼志別	鬼志別	"				◎	
	奥薬別	奥薬別	斜里		○		○			下苗太路	下苗太路	"				○
	斜里	斜里	"		○		◎			知来別	知来別	"				○
	宇遠別	宇遠別	"		○		○		計	28	28	11		24	25	
	止別	止別	"		○		◎		大沢	大沢	天塩					○
	藻琴	藻琴	藻琴		○		○		増幌	増幌	中川		○			◎
	網走	網走	網走		○		○		天塩	中川	"		○			◎
	能取湖	能取湖	"		○		○		"	天塩	天塩		○			○
	常呂	常呂	北見		○		○		遠別	遠別	(増毛)		○			◎
	ライトコロ	ライトコロ	"		○				風連別	風連別	天塩					◎
	佐呂間別	佐呂間別	"		○				古丹別	古丹別	"					○
	芭露	芭露	湧別		○				小平薬	小平薬	"		○			◎
	湧別	湧別	"		○		○		信砂	信砂	"		○			◎
	藻べつ	藻べつ	渚滑		○		○		暑寒別	暑寒別	(増毛)		○			◎
渚滑	渚滑	"		○		◎	厚田	厚田	千才		○			○		
興部	興部	"		○		◎	浜益	浜益	"		○			○		
雄武	雄武	幌内		○		○	石狩	西越	"		○			○		
幌内	幌内	"		○		◎	支笏湖	支笏湖	支笏湖					⊕		
徳志別	徳志別	徳志別		○		◎	余市	余市	千才		○			○		

海 区	水 系	捕 獲 採 卵 場	所 属 事 業 場	実施区分				海 区	水 系	捕 獲 採 卵 場	所 属 事 業 場	実施区分				
				さけ		ます						さけ		ます		
				国	民	国	民					国	民	国	民	
日 本 海 区	古平	古平	千才		○			根 室 海 区	春別	春別	計根別		○		◎	
	美国	美丹	"		○				床丹	床丹	"		○		◎	
	横丹	横丹	"		○				西別	西別	虹別		◎		◎	
	古宇	古宇	尻別		○		○		矢白	矢白	"		○		◎	
	尻別	名駒	"		○		○		風蓮	風蓮	浜中		○		◎	
	朱太	朱太	"		○		○		別当	別当	"		○		◎	
	泊川	泊川	"		○		○		温根	温根	虹別		○			
	千走	千走	"		○		○		穂香	穂香	浜中		○			
	利別	冷見	水利別		○				コタンケシ	コタンケシ	"		○			
	見市	見市	厚沢部				○		ノカマップ	ノカマップ	"		○			
	突符	突符	"		○		○		計	26	26	7		25		21
	厚沢部	厚沢部	"		○				初田牛	初田牛	浜中		○			
	天の	天の	"		○				幌戸	幌戸	太田		○			
	石崎	石崎	"		○				新川	新川	"		○			
大鴨津	大鴨津	"		○		○	藻散布	藻散布	"		○					
小鴨津	小鴨津	"		○		○	別寒辺牛	厚岸	"		○					
茂草部	茂草部	"		○		○	チョロベツ	チョロベツ	釧路		○					
及部	及部	"		○		○	釧路	釧路	"		○		0			
計	32	33	8		28	1	22	阿寒	阿寒	鶴居		○				
根 室 海 区	ルサ	ルサ	羅白		○			え り も 以 東 海 区	庶路	庶路	"		○			
	サシルイ	サシルイ	"		○		0		茶路	茶路	"		○			
	知徒来	知徒来	"		○		0		音別	音別	"		○			
	羅白	羅白	"		○		0		十勝	千代田	札内		○		0	
	知西別	知西別	"		○		0		"	幕別	幕別		○		0	
	春刈古丹	春刈古丹	"		○		0		"	利別	"		○			
	陸志別	陸志別	"		○		0		"	打内	十勝		○			
	植別	植別	薫別		○		0		厚内	厚内	"		○			
	元崎無異	元崎無異	"		○		0		当縁	当縁	大樹		○			
	崎無異	崎無異	"		○		0		歴舟	歴舟	"		○		0	
	薫別	薫別	"		○		0		豊似	豊似	"		○		0	
	古多糠	古多糠	伊茶仁		○		0		楽古	楽古	"		○		0	
	忠類	忠類	"		○		◎		楽尾	楽尾	"		○		0	
	伊茶仁	伊茶仁	"		○		◎		猿留	猿留	"		○		0	
標津	標津	根室		○		◎	計	19	22	8		22		7		
当幌	当幌	計根別		○		◎										

海区	水系	捕獲採卵場	所属事業場	実施区分				海区	水系	捕獲採卵場	所属事業場	実施区分					
				さけ		ます						さけ		ます			
				国	民	国	民					国	民	国	民		
えりも以西海区	歌別	歌別	静内	○		○		えりも以西海区	鹿部	鹿部	八雲		○				
	仁雁	仁雁	(えりも)	○		◎			常路	常路	"		○				
	様似	様似	"	○		○			磯谷	磯谷	"		○				
	日高幌	日高幌	"	○		○			大船	大船	"		○				
	元浦	元浦	"	○		○			大矢尻	大矢尻	"		○				
	三石	三石	"	○		○			尻岸内	尻岸内	(森)		○			○	
	静内	静内	静内	○		○			汐泊	汐泊	"		○			○	
	新冠	新冠	"	○		○			松倉	松倉	"		○				
	沙流	富川	"	○		○			大野	大野	知内		○				
	鷓川	鷓川	敷生	○		○			戸切地	戸切地	(森)		○				
	社台	社台	"	○		○			茂辺地	茂辺地	"		○				
	白老	白老	"	○		○			大当別	大当別	知内		○				
	敷生	敷生	"	○		○			亀川	亀川	(森)		○				○
	貫気	貫気	八雲	○		○			知内	知内	"		○				○
	長万部	長万部	"	○		○			福島	福島	"		○				○
遊楽部	遊楽部	"	○				計	34	34	6	1	33	1	10			
落部	落部	"	○				合計	139	143	39	1	132	1	85			
鳥崎	鳥崎	(森)	○														
尾白内	尾白内	八雲	○														

第2表 支場別さけ・ます捕獲採卵事業実施体制

支場	水系	捕獲採卵場	実施区分				備考	
			さけ		ます			
			国	民間	国	民間		
北根十天千渡	見室	21	21		20		18	
	勝塩	27	27		26		21	
	才島	18	21		21		7	
		16	17		11		17	
		21	21		20	1	7	
計	36	36	1	34		15		
計	139	143	1	132	1	85		

§ 2 さけ・ますふ化放流実施体制

昭和53年度のさけ・ます人工ふ化放流事業は、108個所のふ化放流施設(国37個所、道3個所、民間68個所)で実施し、生産された稚魚は146水系に放流された。

この中には、捕獲を実施しているが、ふ化場のない河川(31水系)、捕獲、ふ化とも行なっていない河川(7水系)への稚魚の移殖放流が含まれる。

昭和53年度のさけ・ますふ化放流実施体制については、第1表から第4表に示したとおりである。(表中の記号は下記のとおり)

さけの欄 …… ○さけ、◎さけ・べにさけ、●さけ・ぎんざけ

ますの欄 …… ○さくらます、○からふとます、◎さくらます・からふとます、㊦ひめます

第1表 昭和53年さけ・ますふ化放流実施体制(国)

海区	水系	実施事業場	支場	魚種		海区	水系	実施事業場	支場	魚種		
				さけ	ます					さけ	ます	
オホーツク海区	岩尾別	岩尾別	北見	()	○	根室海区	伊茶仁	伊茶仁	根室	●		
	斜里	斜里	"	○	◎		標津	中標津	"	○		
	藻琴	藻琴	"	○	○		"	根室	"	○	◎	
	網走	網走	"	○			当幌	計根別	"	○	◎	
	常呂	北見	"	○			西別	虹別	"	◎	○	
	ライトコロ	(北見第2)	"	○			風蓮	浜中	"	○	◎	
	湧別	湧別	"	○	○		別当賀	(浜中第2)	"	○	◎	
	渚滑	渚滑	"	○	○		計	8	8	1	9	6
	幌内	幌内	"	○	○		えりも以東海区	別寒辺牛	太田	十勝	○	
	徳志別	徳志別	天塩	○	◎			釧路	釧路	"	○	○
北見幌別	歌登	"	○	◎	"	鶴居		"	○			
頓別	頓別	"	○		十勝	幕別		"	○			
計	12	11	2	12	8	"	札内	"	○			
日本海区	天塩	天塩	天塩	○		"	十勝	"	○			
	"	中川	"	○	○	歴舟	大樹	"	○			
	石狩	千才	千才	○	○	計	4	7	1	7	1	
	支笏湖	支笏湖	"		㊦	えりも以西海区	静内	静内	千才	○		
尻別	尻別	渡島	○	○	敷生		敷生	"	○			
利別	利別	"	○		遊楽部		八雲	渡島	○	○		
厚沢部	厚沢部	"	○		知内	知内	"	○	○			
計	6	7	3	6	4	計	4	4	2	4	2	
根室区	羅白	羅白	根室	○	○	合計	34	37	6	38	21	
	薫別	薫別	"	○								

第2表 道(※印)、民間の収容施設

海 区	放流水系	収容施設	支 場	魚 種		備 考		
				さけ	ます			
オホーツク海区	ルシヤ	ルシヤ	北 見	○	○	ウトロ漁協		
	遠音別	遠音別	"	○	◎	"		
	奥薬別	奥薬別	"		○	斜里町		
	斜里来運	斜里来運	"	○	○	"		
	能取能取	能取能取	"	○		西網走漁協		
	常呂常呂	常呂常呂	"	○	○	常呂町		
	湧別湧別	湧別5線	"	○		北海道さけ・ます増殖事業協会		
	渚滑ウッ	渚滑ウッ	"		○	紋別漁協		
	幌内幌内	幌内南	"	○	○	雄武漁協		
	頓別鬼志	鬼河原	天 塩	○		頓別漁協		
	鬼志別	鬼志別	"	○	○	猿払漁協		
計	11	11	2	9	8			
日 本 海 区	大増天信暑厚余美古泊相突天釣小及	沢幌塩砂寒田市国字川内符の懸津部	船増北信※増厚余美神恵島熊突上奥小及	泊幌山砂毛田市国内牧石符国尻津部	天 塩	○	○	船泊漁協
				"	"	○	○	宗谷漁協
				"	"	○		北海道さけ・ます増殖事業協会
				"	"	○		留萌地区さけ・ます増殖事業協会
				"	"	○	○	北海道立水産ふ化場
				千 才	○			厚田漁協
				"	○			余市漁協
				"	○			積丹町
				渡 島	○	○		神恵内村
				"	○			島牧村
				"	○			熊石漁協
				"	○	○		乙部町漁協
				"	○			上ノ国漁協
				"	○			奥尻漁協
			"	○	○		清部、江良、小島漁協	
			"	○			松前漁協	
計	16	16	3	14	7			
根 室 海 区	ルササ	ルササ	根 室	○		羅白定置部会		
	シルイ	サルシイ	"		○	羅白漁協		
	陸志別	陸志別	"	○		"		
	古多糠	古多糠	"	○		標津漁協		
	忠類別	忠類別	"	○		"		
	春舟舟	春舟舟	"	○		野付漁協		
	床西別	床本別	"	○	○	別海漁協		

海 区	放流水系	収容施設	支 場	魚 種		備 考
				さけ	ます	
根 室 海 区	矢 白 別	矢 白 別	根 室	○	○	別 海 漁 協 齒 舞 漁 協 根 室 漁 協
	灯 台	灯 台	"	○		
	穂 香	穂 香	"	○		
計	11	11	1	10	3	
えりも以東海区	ホロニタイ	ホロニタイ	根 室	○		落 石 漁 協 浜中町さけ・ます振興事業協会 昆布森漁協 白 糠 漁 協 " " 大 津 漁 協 池 田 町 大 樹 漁 協 広 尾 漁 協 " 庶 野 漁 協
	幌 戸	幌 戸	十 勝	○		
	チヨロベツ	チヨロベツ	"	○		
	庶 路	庶 路	"	○		
	茶 路	茶 路	"	○		
	音 別	音 別	"	○		
	厚 内	厚 内	"	○		
	十 勝	利 別	"	○		
	歴 舟	更 正	"	○		
	楽 古	楽 古	"	○		
	広 尾	広 尾	"	○		
猿 留	猿 留	"	○			
計	12	12	1	12		
えりも以西海区	歌 別	えりも	千 才	○	◎	北 海 道 立 水 産 ぶ 化 場 様 似 町 浦 河 漁 協 浦 河 地 区 さ け ・ ま す 保 護 協 力 会 白 老 漁 協 " 豊 浦 漁 協 鹿 部 漁 協 南 芽 部 町 尻 岸 内 漁 協 東 戸 井 漁 協 銭 亀 沢 漁 協 上 磯 漁 協 茂 辺 地 漁 協 当 別 漁 協 木 古 内 漁 協 福 島 漁 協 北 海 道 立 水 産 ぶ 化 場
	様 似	様 似	"		○	
	日 高 幌 別	春 別	"		○	
	元 浦	元 浦 河	"		○	
	白 老	白 老	"		○	
	敷 生	竹 浦	"		○	
	貫 気 別	貫 気 別	渡 島		○	
	常 路	鹿 部	"		○	
	大 船	大 船	"		○	
	尻 岸 内	尻 岸 内	"		○	
	原 木 戸	井 泊	"		○	
	汐 泊	汐 泊	"		○	
	戸 切 地	上 磯	"		○	
	茂 辺 地	茂 辺 地	"		○	
	大 当 別	当 別	"		○	
	亀 川	亀 川	"		○	
	福 島	福 島	"		○	
尾 白 内	森	"		○		
計	18	18	2	16	6	
合 計	68	68	6	61	24	

第3表 輸送放流

(同一水系の輸送を除く)

海区	放流水系	放流実施 事業場	所属支場	魚種		海区	放流水系	放流実施 事業場	所属支場	魚種	
				さけ	ます					さけ	ます
オ ホ ー ツ 海 区	ルシヤ	岩尾別	北見	○		本 海 区	古丹別	②増毛	天塩	○	
	奥葉別	(来運)	"	○	○		小平葉	"	"	○	
	止別	(")	"	○	○		信砂	"	"	○	
	"	(奥葉別)	"		○		日浜益	千才	千才	○	
	網走	藻琴	"	○			厚田	"	"	○	
	"	(能取)	"		○		古平	(余市)	"	○	
	バイラギ	"	"	○			積丹	"	"	○	
	能取湖	藻琴	"	○			"	(美 国)	"	○	
	"	網走	"	○			古宇	尻別	渡島		○
	常呂	北見第2	"	○			朱太	"	"	○	○
	ライトコロ	湧別	"	○			"	(森)	"	○	
	佐呂間別	"	"	○			白別	八雲	"	○	
	"	北見第2	"	○			突符	(森)	"	○	
	芭露	"	"	○			厚沢部	知内	"	○	
	藻べつ	渚滑	"	○			天の	"	"	○	
"	(ウツ)	"		○	石崎	(上ノ国)	"	○			
興部	幌内	"	○		大鴨津	(森)	"	○			
"	(ウツ)	"		○	"	(小鴨津)	"	○			
雄武	幌内	"	○		小鴨津	知内	"	○			
徳志別	歌登	天塩		◎	"	(森)	"	○			
猿払	徳志別	"	○		茂草	"	"	○			
鬼志別	"	"	○		"	(小鴨津)	"	○			
日本 海区	増幌	②増毛	"	○		根 室 海 区	サシルイ	(ルサ)	根室	○	
	遠別	"	"	○			"	羅白	"		○
	風連別	"	"	○			知徒来	(ルサ)	"	○	
	築別	"	"		○		知西別	羅白	"	○	

海区	放流水系	放流実施 事業場	所属支場	魚種		海区	放流水系	放流実施 事業場	所属支場	魚種		
				さけ	ます					さけ	ます	
根室海区	ボン春刈古丹	羅白	根室	○	0	えりも	様似(えりも)	千歳	○	0	0	
	春刈古丹	"	"	○			日高幌別	"	"			○
	"	(サシルイ)	"	○			元浦	"	"			○
	植別	(陸志別)	"	○			三石	"	"			○
	崎無異	薫別	"	○			新冠	"	"			○
	古多糠	伊茶仁	"	○			"	静内	"			○
	忠類	"	"	○			沙流	"	"			○
	標津	"	"	○			鷓川	千才	"			○
	温根別	虹別	"	○			錦多峰	敷生	"			○
	穂香	"	"	○			社台	"	"			○
コタンケン	"	"	○	敷生	静内	"	○					
えりも以西海区	初田牛	"	"	○	0	以西海区	長流(貫気別)	渡島	○	0	0	
	新川	(幌戸)	十勝	○			長万部	八雲	"			○
	藻散布	釧路	"	○			"	(森)	"			○
	別寒辺牛	"	"	○			落部	"	"			○
	チョロベツ	"	"	○			"	八雲	"			○
	阿寒	"	"	○			鳥崎	(森)	"			○
	厚内	十勝	"	○			常路	"	"			○
	浦幌十勝	"	"	○			矢尻	(尻岸内)	"			○
	当縁	大樹	"	○			原木	"	"			○
	豊似	(広尾)	"	○			"	知内	"			○
小紋別	"	"	○	松倉	(汐泊)	"	○					
音調津	"	"	○	大野	(上磯)	"	○					
猿留	(えりも)	"	○	大当別	(森)	"	○					
えりも以西	仁雁別	千歳	千歳	○	合計	84	49	6	92	14		
"	"	(えりも)	"	0								
"	"	(様似)	"	0								

第4表 支場別さけ・ますふ化放流実施体制

支 場	放 流 水 系 数	ふ 化 施 設 数				実 施 区 分		備 考
		国 営	道 営	民 営	計	さ け	ま す	
北 見	2 1	8		8	1 6	○	◎	
根 室	2 8	8		1 1	1 9	○	◎	
十 勝	1 7	7		5	1 2	○	○	
天 塩	1 8	5	1	4	1 0	○	◎	
千 才	2 3	4	1	8	1 3	○	○ ◎	
渡 島	3 9	5	1	1 8	2 4	○	◎	
計	1 4 6	3 7	3	5 4	9 4			

§ 3 さけ・ます増殖事業経費

昭和53年度のさけ・ます増殖事業のために要した経費、予算および決算額は下記のとおりである。

なお、52年度から5か年計画で、農林水産技術会議による『溯河性さけ・ます大量培養技術の開発に関する総合研究』が全国規模で実施されることとなり、当场もその主要メンバーとして35,668千円の予算が配分になった。

昭和53年度さけ・ます増殖事業のための予算および決算額

区 分	予 算 額	決 算 額	備 考
(組 織)	円	円	
水 産 庁			
(項)			
北海道さけ・ますふ化場	826,965,000	823,327,041	
(目)			
人 当 経 費	529,331,000	526,138,154	
諸 謝 金	91,000	43,000	別枠研究予算 91千円
職 員 旅 費	13,657,000	13,655,391	" 2,656千円
庁 費	17,177,000	17,176,390	
採卵ふ化放流庁費	247,636,000	247,633,871	" 32,921千円
土地建物借料	5,523,000	5,131,861	
各 所 修 繕	12,188,000	12,187,204	
自動車重量税	516,000	515,900	
国有資産所在市町村交付金	846,000	845,270	
(項)			
水産庁施設費	143,361,000	143,299,626	この他開発局施工分子算額 383,675千円
(目)			
施設施工旅費	988,000	987,135	
施設施工庁費	745,000	744,891	
施設整備費	141,628,000	141,567,600	
合 計			

(組 織)			
農 林 本 省			
(項)			
農 林 本 省		3,791,456	
(目)			
国際機関等派遣職員給与		3,791,456	
休職者給与		0	